

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0791000011		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム優希の杜 1階		
所在地	二本松市長命68-1		
自己評価作成日	平成29年7月1日	評価結果市町村受理日	平成29年9月27日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php</a>		

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年8月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

①地域の行事等に参加させて頂いたり、ボランティアの方に来て頂くなどして地域交流に努めている。少しずつ地域の皆様との交流が増えてきている。
②他施設と連携を図り、情報交換を行いながら入居者様やご家族様が必要なサービスを選択できるよう取り組んでいる。
③職員が働きやすい職場作りに取り組んでいる。職員それぞれの事情等を考慮し、勤務形態や時間を変えるなど、働きやすい勤務形態を作っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1 法人は県内に多くの福祉関係事業所を展開しており、常に各事業所の情報を共有して、質の高いケアを実践している。
2 事業所は開設後10年経過し、開設時からの利用者もおり、職員の異動も少なく利用者との信頼関係が構築され、家庭的で温かい雰囲気のある事業所となっている。
3 法人では職員の資質向上を図るため、研修会への参加や資格取得への支援制度があり、有資格者には手当の対応もあり人材育成体制が確立されており、全職員が意欲的に業務に励んでいる。
4 事業所では各種行事を通して地域住民とふれあう機会が多く、地域とのつきあいが円滑に行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度末に全職員が事業所理念の反省と理想とするホームについて個々に記入し、後日、全職員で検討し、理念の作成をしている。理念に沿った共通のケアが提供できるように努めている。	「法人理念及び運営方針」を基に事業所理念を策定している。事業所理念は事業所の現況を踏まえ、毎年見直している。理念は事業所内に掲示し、「スタッフ会議」等での申し合わせを通して全職員が意識を共有し日々のケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にボランティアの方々の訪問がある。また、積極的に出かける機会を設け、地域のイベントの見学や、買い物等を通し、地域の方々と交流を図っている。	町内会に加入しており、地域の運動会には地域住民の協力を得て参加している。事業所の行事には地域の方々の参加もあり日常的に交流している。多くのボランティア(日舞・コーラス・書道・歌謡・琴・尺八等)を受け入れており、さらに毎年介護実習生を受け入れている。隣接する企業との交流会にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、ホームでのケアの様子を伝え、理解して頂けるように説明している。ご家族にも認知症への理解を深めて頂けるよう、入居者様への日々のケアについて話す機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催している。ホーム行事や研修、事故等について報告している。より良いサービスが提供できるように、出席者からの意見を取り入れ、ホーム運営をしている。	会議は定期的に開催されており、内容は事業所の取り組み状況等を報告している。委員は各分野から広く委嘱されており、地域の女性防火クラブ員も参加している。各委員から多くの提言があり、会議の議事録は的確に記録されており、事業所運営に反映されている。委員からの提言により、街灯の設置やパンの訪問販売の受け入れ等につながった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村の担当者へ出席頂き、ホームの現状や入退居に関して情報交換をしている。市高齢福祉課の方と連携を取り、ホーム運営をしている。	設立時より行政の担当職員とは利用者の状況、事業所運営、介護保険に関する相談を通して連絡を密にしており、アドバイスをもらい協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを整備している。研修を受け、伝達講習にて職員全員が身体拘束を行わないケアを実践している。定期的にケアについて話し合いの場を持ち、よりよいケアが出来るよう取り組んでいる。	「身体拘束をしないケア」及び「言葉による拘束」については、全職員がマニュアルや研修会を通して認識しており、拘束のないケアを実践している。日中は玄関の施錠はなく見守りで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを整備している。研修や伝達講習を通し虐待をしない心構えを全職員が持っている。定期的に介護中の声掛け等について話し合いの場を持ち、よりよいケアが出来るように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修を受け、伝達講習にて全職員が理解をしている。現在制度を利用している方はいないが、制度を活用する際は再度理解が出来るように勉強会を開催するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、丁寧に説明し、理解して頂くようにしている。契約後も不明な点がある時は、その都度本社と連携を図り対応している。解約の際も同じように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族からの意向を確認している。入居者様とは日ごろからコミュニケーションを持ち、日々の会話の中で思いを汲み取り、実現できるようにしている。玄関にアンケート用紙を設置し意見を頂き、運営に反映している。	事業所では家族が何でも話しやすい雰囲気等を常に心掛け、面会時や状況報告等あらゆる機会をとらえて家族の意見や要望等を把握している。出された意見や要望等は、月例の「スタッフ会議」や「ケース会議」で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や職員の個別面談の機会を持ち、職員の意見や要望等を確認している。要望等に関しては、代表者へ報告し、検討後運営に反映させている。また、代表者は管理者の面談を定期的実施し、意見や要望を聞く機会を設けている。	管理者は職員とのコミュニケーションを大切にしており、日々の生活の中で随時意向把握に努めており、さらに「職員と個別ヒアリング」等も実施している。把握した意向等は月例の「ユニット会議」等で話し合い事業所運営に反映させている。課題によっては法人に上申されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握し、給与へ反映させている。有給休暇や希望休も取得しやすく、やりがいや向上心を持ち働ける職場環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修に参加し、伝達講習により職員が共通認識でケアに取り組んでいる。職員一人ひとりの力量を把握し、より良いケアが出来るように職員間で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や法人内勉強会に参加している。法人内を始め、同業者と交流を多く持つことにより、サービスの質の向上に反映できるよう取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の生活歴を理解した上で、不安や要望等に耳を傾けている。不安を取り除くため関係性を密にし、一緒に向き合うことで信頼関係が構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と入居者様に関する情報を伝え合い、信頼関係が築け、良好な関係作りができるようにしている。ご家族の意向がケアプランに反映出来るように取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時に現在の状況を確認し、また担当ケアマネより情報提供を受け、本人が出来ない事、困っている事、心配に思うことなどを聞き取り、他のサービスも含めた支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な範囲で家事等のお手伝いを見守りのもと行って頂いている。ホーム内の装飾には入居者様の助言を取り入れている。楽しいと思えるような生活が出来るように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に誕生会や行事等の日程を案内し、参加できる日程を相談し、楽しい時間を一緒に過ごせるようにしている。面会時に生活状況や健康状態などを伝え、状態の報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が関わってきたことが出来るように、電話の取り次ぎや近隣への外出、外泊、理髪、通院等を、ご家族の協力にて実施している。	馴染みの理美容院等の利用については家族の協力を得て支援している。訪問理美容院も受け入れている。友人知人の訪問もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援をしている。家族の協力により外泊も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の相性や好みを理解し、共有スペースで過ごせるに声掛けをしている。レクリエーションや工作、歌をうたったり、音楽体操など職員が入居者同士で楽しめるように関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族にお会いした際は、近況を伺いながら必要に応じ相談や支援に努めている。施設に移られた際は、問合せなどに対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の生活歴を理解し、日々の生活の中で、不安や意向を汲み取っている。意思表示の困難な方については、表情や反応を見ながら意向を汲み上げている。ケアプランに反映し、思いが実現でき、共通のケアが出来るように取り組んでいる。	日常生活の中で利用者の些細な言動や行動からも本人の希望や意向を見逃さずに把握するようにしている。また、意思表示が困難な方についても常に声掛けを行い、表情の変化や家族からの聴き取り等で利用者の想いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様との会話やご家族、知人の面会の際、今までどんな暮らしをしていたか傾聴し、本人の好み、こだわりを理解できるよう情報交換をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今できている事が続けられるように、身体や心身の状況を常に観察し、残存機能が活かせるように取り組んでいる。何事も本人が意志決定をして生活出来るように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活を踏まえてモニタリングを行い、ケース会議に反映させ検討している。本人やご家族の意向を取り入れながら、入居者様の現状に沿った介護計画を作成している。	利用者の現状把握を十分行い、利用者本位の介護計画を作成している。また、サービス計画に基づいた個別記録をもとにモニタリングをして、利用者の現状に即した計画に見直している。利用者の状態に変化があった場合には随時計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはケアプランに沿った状況を記録している。排便状況や水分摂取状況、バイタル値も記入し、申し送り等で情報を共有している。介護計画の見直しにも活かされている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護給付券申請についての説明や手続き申請を行っている。他施設等への申し込みをしたいとの意向がある際は、必要書類への記入や問合せ、実態調査の対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方々の訪問により、楽しい時間が過ごせている。地域の花の観賞や行事、イベントに参加している。地域での買い物に出かけ、気分転換が図れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族の意向に合わせ、かかりつけ医の受診をしている。また、月1回の訪問診療も受けることが可能となっている。体調不良時は、主治医に電話連絡し、通院対応を行い、ご家族に経過を報告している。	かかりつけ医の受診には家族対応を基本としており、受診の際に医療機関に利用者の情報提供をして連携を密にしている。また、かかりつけ医の往診も受け入れている。受診後は受診記録を活用し家族と情報の共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師と共に健康管理している。入居者様や職員が健康上の気になるところを相談し助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリー等の情報提供をしている。入院中は、面会し状況確認をしている。早期退院に向けた情報交換や相談をしている。主治医に近況報告をし、退院後も安心して戻れるよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にご家族様に重度化や終末期についての意向を確認している。症状に応じ随時主治医を交えご家族が、納得し不安が解消できるまで十分な説明を行っている。ご家族の意向に沿ったケアが出来るに職員全員が共有し取り組んでいる。	「重度化した場合における(看取り)指針及び医療連携体制同意書」「終末期の看取りについて(事前確認書)」等で利用開始時に詳しく説明しており、随時意向確認をしながら対応している。利用者が重度化した場合には家族・医師等と十分話し合い、家族の希望に沿って柔軟に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を全職員が受講している。勉強会で急変時の対応、連絡手順について訓練をし緊急に備えている。緊急時は個別に情報記入用紙を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月に消防署立ち合い、10月には地元消防団と合同で避難訓練を行い協力体制を構築している。毎月1回はホームで防災訓練を実施している。非常食などの備品を準備している。	毎年消防署立ち合いで防災訓練を実施している。また、地元消防団立会いの避難訓練も実施している。事業所独自の防災訓練は年間計画のもと、毎月実施している。非常時の対応としてレトルト・缶詰類・米・水・コンロ・鍋・シート等も備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を受講し伝達講習を行い、全職員が入居者様1人1人を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けを行い、接している。個人情報については同じく研修や伝達講習により周知徹底を図り秘密保持に努めている。	全職員がマニュアルや研修会を通し、利用者一人ひとりの人格を尊重し、尊厳が損なわれないような声かけをしている。個人情報の取り扱いについても周知徹底を図り、個人情報は施錠可能なキャビネットに保管している。「優希の杜だより」の写真掲載については、本人及び家族の同意を得たものだけ掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が要望や自己決定しやすい環境作りをしている。食事量やお粥等食事形態の希望を聞き提供している。行事食や誕生会の際は希望のメニューを聞いて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調や気分に合わせて1日が過ごせるように取り組んでいる。(入床、起床時間 日中居室で休む等)個々に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容やご家族協力にて美容院にてカットをしている。整容が出来るように声掛けや見守りをして対応している。本人の好みを取り入れ着替えし、おしゃれを楽しんで頂けるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理の下準備を職員と行っている。食事の形態に気をつけ飲み込みやすいようにしている。職員が同じ食卓にて和やかに食事が出来る環境を提供している。季節を感じられるメニューを工夫している。	献立は法人の管理栄養士が作成しているが、利用者の希望や天候等により臨機応変に変更している。食材は法人から配送され、食事の準備や後片付け等は可能な限り利用者とともにしている。利用者の楽しみである外食や行事食も多く取り入れ、実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録している。水分摂取量の少ない時は、好みの飲み物やゼリーなどで水分摂取が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、口腔内の観察を行い、必要に応じて介助をしている。就寝前は、義歯洗浄剤にて義歯の清潔を保っている。また、本社の歯科衛生士による口腔内の観察や口腔ケアについての助言を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄間隔を記録に残し、訴えや定時等、個々の間隔に合わせ誘導している。おむつ使用の方も、訴えと間隔に合わせ交換し、不快を減らし、自立に向けた支援をしている。	利用者個々の排泄チェック表をもとに一人ひとりのパターンを把握し、利用者個々の支援に努めている。日中はトイレでの排泄の自立を目標にしており、利用者の仕草や見守りで誘導している。日々の支援により改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表の活用や申し送りにより、排便の有無を確認し、主治医の指示の下、下剤を調整している。水分摂取、乳製品を取り入れ、できるだけ自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に沿いながら、入浴管理表にて週2回以上入浴が出来るように対応している。入浴剤などを用いて入浴を楽しんで頂いている。体調不良により入浴が難しい場合は清拭や更衣により清潔の保持が出来るようにしている。	利用者の希望により入浴できる体制となっている。入浴は個々に対応しており、毎回湯を交換し清潔に留意している。入浴剤も各自選択でき、入浴が楽しめるよう配慮している。入浴が出来ない利用者には、足湯・シャワー浴・清拭等で対応している。季節感のあるゆず湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床や起床時間を個々に合わせ対応している。定期的にシーツ交換を行い清潔保持に努めている。天気の良い日は布団を干すなど安眠出来るようにしている。室温や湿度管理も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員服薬内容を把握している。配薬は二人体制で実施している。服薬後は症状の観察を行い、何かあれば、医師に状況報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から入居者様が持っている能力を引き出し、家事手伝いなどの役割を持ち生活して頂いている。配食、出張料理、行事食によりいつもと違った雰囲気楽しく過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩や外気浴にて季節を感じる事ができるようにしている。本社バス使用により、車いすの方も一緒に外出する機会を設けている。また、社用車にて身近な買い物や外出支援をしている。ご家族の協力も頂いている。	外出支援を数多く(花見・紅葉狩り・イチゴ狩り・ひまわり園・菊人形等)企画し実施している。外出時の外食も利用者の楽しみになっている。また、庭のベンチでの外気浴や近所の散歩等は日課となっている。家族の協力を得ながら墓参りや買い物等も利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持希望の入居者様にはご家族と相談しながら安心して所持が出来るように支援している。飲み物などを定期的に購入している方は自分で支払いをしている。継続してお金を使用する機会を取り入れている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせ電話を使用できる環境がある。耳が遠く会話が困難な入居者様の場合は職員が代わり対応している。手紙の投函を希望された際は、職員が投函し対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室に温度計と湿度計を設置し、季節により、加湿や空調、室温、換気を行い快適に過ごせるように支援している。共用スペースは季節に合わせ皆さんと作成した作品、行事の際の写真を掲示し居心地良く過ごせるように努めている。	利用者の季節感あふれる作品や行事写真が飾られており、居心地よい空間となっている。共用空間は広く、テーブルコーナー・ソファコーナー・和室があり、利用者は好きな場所で自由に過ごしている。共用空間のベランダは掃き出しになっており、災害時の避難誘導には有効である。加湿器等を使用して健康管理にも気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の関係性を考慮し食堂やソファで思い思いに過ごせるような環境を整備している。認知症の方が混乱を招かないよう居場所の工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	以前から自宅で使われていたダンスやテレビ、椅子、アルバムなどをお持ちいただき、なじみの物や思い出の物と共に、安心して過ごせるように支援している。	換気扇・洗面台・トイレ・介護ベッド・ダンス等が設置されている。利用者は各自馴染みの家具、テレビ等を持参し、安心して過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、トイレの手すりの設置や居室内家具の配置を工夫している。転倒を予防し残存機能を長く維持して生活が出来るように努めている。		